

平成23年9月4日(日) 経営研修会 (茨城被災地研修)

## 津波、風評被害・・・ 茨城も苦しんでいる



### INDEX

- 茨城の被災地研修…………… 1～2
- 小川氏特別寄稿…………… 2
- 会員企業訪問・(株)サンライフ …… 3
- 例会報告…………… 4
- 会員異動/スケジュール …… 4



### 絆の力を共に実感！

今回の大震災は、一体我々に何をもたらしたのだろう。そんな話題で6月末の今年度初めての経営研修委員会は始まりました。研修会として何をやるか、我々にとって身近で切実なところからスタートすべきではないか、講師を呼んで講習会か、一番の講師は被災者じゃないか、誰から話を聞いたらいいのか、ボランティアもしないで物見遊山と思われぬか、肩もみではダメか、等々話は尽きません。最終的に「被災地体験・交流ツアー」研修会という企画を役員会に出すことに決まりました。

9月4日(日曜日)、前日まで台風の影響を心配していましたが、天気は心配なさそう。総勢34名、臼井県議、小川市議会議長に見送られ7時45分出発。幕張インターを過ぎた頃から、川村市議によるミニ研修会。千葉市の防災体制や、今回の大震災では市のヘリコプター2機が大活躍したこと、災害時の非常交通機関としてのバスの活用等、普段聞

けない話に皆さん真剣に耳を傾けていました。

10時30分、北茨城市商工会に到着。事務局長さんに同乗して頂き大きな被害を受けた大津港へ。途中道路の両側のいたる所に石灰が撒かれた空き地が見られたが、被災して取り壊した跡とのこと。大津港では既にガレキも撤去され震災直後の姿は無かったものの、5mの堤防を乗り越えて来た津波の爪跡が誰もいない漁港の建物にくっきりと残っていました。港の分厚いコンクリートもズブズブにされ、バスも最徐行をしなければならないほど。

11時10分、五浦観光ホテルで懇談会。北茨城市商工会の今井会長、五浦観光ホテルの村田専務、大津水産加工組合の杉本組合長、そして上遠野事務局長にコメントをお願いし、皆さんから10分ほど被災状況をお話頂いた後に質問タイム。五浦観光ホテルでは8月1日から営業は再開できた。しかし、今まで地産地消をモットーにしていたが、お客様への気遣いから食材は築地から仕入れなければならなくなった。杉本組合長からは、震災前に獲れて

冷凍してある干物も、北茨城産と書いてあるだけで何処も買ってくれなくなった。この先何年続くか、今では毎日お祈りをしている。今井会長の、今までの長い人生の中で何度か辛い思いをしてきたが、今度の原発及びその風評被害は、人災であり自分達で回復する手立てが無い、人災は天災より怖いという言葉は印象に残りました。事務局長からは、こんなことはないだろうという事が起こった、平時から、自宅でも会社でも必要なものはすぐに持ち出せるようにとのアドバイスを頂きました。

皆さん、被災後に感じられたのは絆ということだったそうです。家族の絆、職場の絆、地域の絆。そして、杉本組合長から、今回の我々の訪問は、暗闇の中で一筋の光明を見た思いでしたと言われ、返って恐縮してしまいました。予定よりも延長して懇談会は終了。皆さん朴訥な話され方で、話の内容もさることながら、真剣にお話頂いたことに感動

いたしました。

12時50分、別室で太平洋を眺めながら昼食。ゆったりと1時間ほど露天風呂に浸かり、次はお隣福島県の小名浜港へ。港周辺は道路もうねり、信号はいくつも停止中。ガレキは放射能の影響で処分できず、うず高く積上げられたまま。バスから下車することなく通り過ぎただけですが、唯々溜息ばかり。

帰りの高速に入ってから懇親会。千葉市に関する21の質問ゲームの後はカラオケタイム。夕日を浴びて歌っているうちに午後7時千葉に到着。心ばかりの支援として買わせていただいた干物をお土産にして解散。参加していただいた皆さんに、加藤会長始め企画を後押ししてくれた役員会に、そして何よりも北茨城市の皆さんに感謝する研修ツアーでした。

以上

(文責：御園 一成)

## 特別寄稿

### 千葉県選出の初首相！ 野田政権誕生2カ月余で見えたこと

小川 智之

世論を二分するほど大きな政治課題である TPP 問題。野田首相は、去る11月11日に参加表明をし、その翌日に APEC に乗り込み交渉を開始しました。その結果は、マスコミの報道やアメリカ側の発信を鵜呑みにしていいのかわかりませんが、我々の不安は的中し、日本の外交下手が露呈される結果となっています。細かい交渉については今後進展すると思いますが、第1ラウンドから先制パンチをもらった感は否めません。

さて、野田政権が誕生して早2か月半が過ぎました。この間、皆さんはどのような評価をされているでしょうか。

発足当時は歓迎ムードが多い一方、「決断ができない」「財務省主導」「党内融和優先」という批判もあちこちでなされていました。まだ2か月で結論を出すのは早いかもしれませんが、あながち後者の批判は間違っていないような気がします。

まず、党内人事の面ですが、何より驚いたのは、幹事長に輿石東氏が選ばれたことです。幹事長という党内のカネと権力を持つポストに日教組の親分で小沢代表とも近い存在である輿石氏というのは、理解に苦しむし、政策より党内バランス重視の人事であることは間違いないでしょう。

また閣僚人事についても、当初から疑問が残るものでした。就任早々の素人発言や視察後の「死のまち」発言など、とても国を代表する大臣とは思えない程度の低い発言の数々。その後も、厚労相のたばこ税の増税発言や TPP を巡る農水相の見解など閣内不一致の発言も数多く散見しており、どのあたりが適材適所なのか問い詰めたいた

す。

そもそも民主党政権は発言がブーメランのように自分のところに帰っていくと揶揄されるように、多くの矛盾を内包しているのです。

その中でも極めて悪質なのが、「国難の時こそ国民に信を問え」と言っていたにも関わらず、一度も国民の信を問うことなく3人の首相が交代していることであります。その上、当初消費税は増税しないと言いつつも、徐々に議論するという姿勢を打ち出し、野田首相の代にはとうとう増税路線に舵を切り、法制化後に信を問うという姿勢を取り始めました。もはや開いた口が塞がりません。

また、我々地方議員の立場から言わせてもらおうと、民主党政権は「地域主権改革」を高らかに謳い、地方分権が進展することを期待しておりましたが、その期待は裏切られ続けています。

確かに、「地域主権一括法」が可決・公布され、国と地方の協議の場が法制化されたり、国が地方を縛ってきた基準（義務付け・枠付け）が緩和されたりしましたが、完全に形骸化しており、むしろ官僚支配の強化に繋がっている嫌いがあります。

その他にも、消費税の増税分は全て国の歳入にしようとしたり、子ども手当の地方負担増、自動車取得税・重量税の廃止による地方交付金の減など、今後議論されるものについても、地方分権を進めようという気概は一切感じられません。

我々、千葉県民は民主党とは言え、県内から首相が出たことに大きな期待をしてわけですが、結局、何となく裏切られたような気がします。私の政治信条として批判のための批判はしたくありませんが、ここまで相手に信念がないと議論が全く噛み合わなく、深まることはないでしょう。そうすると、相手を変えるしかないのです。決断できない首相に解散を求めることは酷かもしれませんが、我々は野田首相の英断を期待しています。

## 第7回 (株)サンライフ

### 健康・自然食品専門店の先駆け

「自然塩」との出会いが人生を変えた！

#### 減塩ブームに警鐘

林理智子さんと話した2時間は、「塩」についての正しい知識を得る熱き“勉強会”となった。

現代人は情報洪水の中で生きている。とりわけメディアの流す情報は、時として選択の余地すら与えてくれないほど強力な方向性をもって我々の生活に覆いかぶさってくる。

「減塩ブームの結果、低体温の人が増えているのです。それがガン患者を増やし、うつ病を引き起こしています」

林さんは、今日の減塩ブームに警鐘を鳴らす。

しかし、メディアは健康番組などで毎日のように減塩ブームを煽り続ける。塩はすっかり世間の患者に仕立てられてしまった。日本人が愛し続けてきた味噌汁までが患者になってしまいそうだ。林さんは言う。

「化学的な製法で作られた塩は、確かに健康を害する要素をたくさん持っています。これは、塩を専売公社で供給していた時代に国策で大量生産するためにできた塩なのです。自然の塩とは、成分が違います」

国策！ 福島原発事故以降、我々はこの言葉を多く見聞きした。原発の安全神話は、国策によってできあがったことを今では否定する人はいまい。

国策によって戦後、食生活の中に大量に入り込んだ化学製法の塩こそが患者で、自然塩まで患者にしてしまったら日本人は一億総病人になってしまう……これが林さんの憂慮である。

世の中に減塩信仰ができつつある。だから林さんは、塩の正しい知識を知ってほしいと、様々な機会を得て多くの人に熱く語り続ける。それが林さんのライフワークであり、自分に課せられた生涯の使命だと捉えているのだろう。

「敵に塩を贈るという言葉があるように、塩と水は生命の維持に欠かせません。胎児を育てる羊水にも塩分があります。減塩、減塩と言って身体の塩分濃度を下げ続けたら生命は危機に晒されます。私自身がそうでした」

林さんが自然塩の普及に情熱を注ぐのは、大きな理由がある。自分自身が減塩の結果もたらされた体調の悪化に苦しみ、そして自然塩との出会いによって救われたことである。話は30年以上前にさかのぼる。

#### 夫婦で始めた自然食品の店

林さんは富山県氷見市の出身で、20代前半まで氷見市で生活していた。たまたま姉が住んでいた神奈川に滞在していた時、千葉で夫とめぐり会い、やがて結婚に至った。

知り合ったのは、林さんが持病に苦しんでいた時だった。

「24歳の時に急性腎盂炎を患ってから減塩食と利尿剤をずっと手放せなかったのですが、そのためか貧血と低血が



ひどくて体調はいつも最悪でした。夫は健康食品メーカーの代理店をやっていて、薬局などにサプリメントを卸していました。で、私の体調を心配して自分が扱っているサプリを勧めてくれたのです」

まだ健康食品や自然食品への関心が今日ほど高くなかった時代である。結婚してサプリを常飲するようになった一方、二人で店を持つことを決め、健康・自然食品の店を開店。千葉県内では専門店としてはまだ2店舗ぐらいしかなく、まさに先駆けだった。(株)サンライフという社名で法人化も成し遂げた。

しかし、林さん自身はサプリによって体調を根本的に治すまでには至らず、妊娠中には血圧が上60、下は40まで下がっていた。医者からは「普通に生活しているのが不思議だ」と言われるほど最悪の健康状態だったとか。

そんな時に出会ったのが「波動法製造」による自然塩だった。普及活動をしていたのが阿部祥二氏。「波動」とは自然エネルギーのことで、要は化学的な処理をせずに自然を生かした製法で塩や砂糖を作るのだ。

「減塩生活をしている限り体調は良くならない。身体に害を与えない塩を摂らないとダメだ」

阿部氏にこう言われ、勧められた塩を水でもコーヒーでも何でも、ひとつまみ入れて飲むようにした。

素直に続けること数週間。明らかに体調が良くなってきた。朝の目覚めが良く、以前とは比べものにならないぐらい朝の爽やかさを感じる。しょっちゅう起こっていた立ちくらみもなくなり、身体に関わる心配のタネがどんどん消えていった。

自分の体験から確信を持った自然塩を店でも販売するようになり、みんなに自分の体験を話す。劇的な自分自身の体験ゆえ、説得力もあるからファンが増えていった。

お店の運営も好調になったが、一つだけ想定外の出来事があった。夫が自然塩を使う漬物工場を友人たちと別に作ったのだが、わずか1年で挫折。7000万円の借金を抱えてしまったのである。

その苦労のストーリーはここでは省くが、借金はサンライフの事業できれいにクリアした。

林さんの話は、終始ポジティブだった。困難を乗り越えたあとの幸せ感を他の人にも分け与えたい——そんな気持ちがサンライフの店内に漂っている気がした。

(取材・文/奥平。次回は林社長の紹介で(株)プラント東葉を予定)

## 信州へ行った(親睦研修旅行)

平成23年10月22日~23日 上高地・松本方面

色々な行事でいつも話題になるのが参加者の人数です。今年の旅行は例年になく小人数、たったの13名です。でも終えてみれば、「本当にゆったりと心地よい旅が出来た」が、皆さんの感想でした。

座席のワンボックスが各人に与えられ、掛け声ひとつで「居間」と呼んでいたサロンの部分に全員が集合、賑やかに宴会を開きました。そして、飲み疲れれば個室で横になって休む、まさに和気藹々、意気投合の、めったに出来ない「贅沢旅行」でした。

出発の朝、見送ってくれたのは、何人かの仲間と「どしゃぶり雨」、親睦委員長代行の長谷川さんは気が揉めて元気がイマイチ出ません。サテサテどうなる事やら？それでも居間で宴会が始まりました。

臼井先生は張り切っていて、「うちの女房は雨女でね、今朝は珍しく送って貰ったらこの雨だもんね。でももう家に帰ったから大丈夫だよ」と言った直後、雨が上がり始めたのです。諏訪で早めの昼食となった頃には薄日も出る程。加藤会長、穴倉副会長もガゼン元気が出て来るし、阿佐節が出る頃にはリッチちゃんと洋子嬢の綺麗所も出来上がっちゃいました。小野さんが歌い、真田弁士の「赤いランタン」も出て、いつもの騒ぎがすっかり蘇ったのです。バスの前半分、通常座席には誰も座っていない事を除けば。

上高地でビール片手の散策、すごく楽しかったね！(文責：金田 敏彦)



↑ 碌山美術館にて  
← 上高地・河童橋を背景に

## 定例朝食会報告

毎月第2土曜日 午前7時開会 ホテルグリーン・タワー幕張

今年度も、会内外の講師に卓話を聴く定例朝食会を開催しています。

9月は御園研修委員長に「北茨城震災被災地体験・交流ツアー報告」、10月は臼井正一氏に「誇れる日本人、世界で活躍した日本人について」をテーマに卓話を頂きました。

11月は今年度初の夕食例会を開催しました。都合で臼井先生は欠席でしたが、高山測量の高山尚士氏に「若手経営者への人間学教育」について講演して頂きました。午後8時半例会終了後、会員の中には誘い合わせて「幕張倶楽部」で二次会を楽しまれた方々もいらしたようです。

これからも多様な講師をお招きする予定となっております。なお、夕食例会は12月以降も2月まで開催しますので、ぜひ出席して下さいますようお願いいたします。12月は望年会を兼ねて多くの方の参加をお待ちしております。

(阿佐一郎例会委員長)



### 11月・12月・1月のスケジュール

11/30(日)	ミニ研修会 「千葉市の法人向け防災対策」 <b>参加費無料</b>	18:40開会 会場：千葉市生涯学習センター
12/ 9(金)	夜例会・望年会	19:00開会 参加費 5,000円 会場：ホテルグリーンタワー幕張
12/14(水)	役員会	18:30開会 会場：プラザ菜の花
1/11(水)	役員会	18:30開会 会場：プラザ菜の花
1/28(土)	20周年記念式典・新春の集い	18:30開会 参加費:5,000円 会場：ホテルグリーンタワー幕張

### 編集後記

間もなく師走というタイミングで、今年度2回目の会報をお届けすることになりました。3カ月ぶりともなると、会報に載せたい記事はたくさんあるのですが、行事としては茨城の被災地研修と親睦旅行ぐらいいしスペースを割けませんでした。御園さんの研修会報告には、充実感が滲み出ていました。私は参加できませんでしたが、とても良い研修会だったと感じます。金田さんの親睦旅行記からは、楽しさが十分に伝わってきました。読んで「来年は参加しようかな」と思う会員の方もいらっしゃるかも知れませんね。

千葉県選出の国会議員からは初めての首相ということで、小川市議に寄稿をお願いしましたが、小気味いい書きぶりに「さすが」という印象を受けました。「決断できない首相」というのは、市議の言葉ではなく世間の批判を取り上げたものですが、そうした批判の声を覆すこともなく千葉県民の期待感が萎んだまま、また1年で首相交代の回転扉が回り始めてしまうのでしょうか……。 (産方)